

	福島県		県中地域				須賀川・岩瀬地区				石川地区				田村地区			
	51週	50週	第51週		第50週		第51週		第50週		第51週		第50週		第51週		第50週	
	感染症動向	感染症動向	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報
インフルエンザ	2172	1611	146	137	89	131	72	80	42	62	10	7	1	17	64	50	46	52
咽頭結膜熱	40	57	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	214	192	31	0	29	0	22	0	19	0	1	0	1	0	8	0	9	0
感染性胃腸炎	123	136	27	11	30	35	25	5	26	10	0	5	0	18	2	1	4	7
水痘	31	33	20	14	9	20	20	13	9	15	0	0	0	0	0	1	0	5
手足口病	30	30	13	8	3	1	13	0	1	0	0	8	0	1	0	0	2	0
伝染性紅斑	74	75	17	7	17	3	8	1	7	1	0	0	0	0	9	6	10	2
突発性発疹	33	21	1	0	3	0	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ヘルパンギーナ	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性耳下腺炎	2	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
RSウイルス感染症	45	36	5	0	6	0	1	0	1	0	0	0	0	0	4	0	5	0
急性出血性結膜炎	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性角結膜炎	14	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

県中地域の状況

流行中 現在、インフルエンザ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎・水痘・手足口病・伝染性赤斑・RSウイルス感染症の流行が続いています。

小流行中 現在、小流行の感染症はありません。

福島県内で風しんの発生届がありました。

○風しんの症状

- ・症状：発疹、発熱、リンパ節の腫れ等がみられます。
3日～1週間程度症状が続き、解熱後、発疹が消滅します。
- ・潜伏期間：2週～3週間
発疹が出る1週間前から発疹が出た後1週間くらいまで感染力があるといわれています。
- ・治療：特異的な治療法はなく、対処療法がおこなわれます。
- ・感染経路：飛沫感染（咳やくしゃみのしぶき）、接触感染

○予防するには

特異的な治療法がないため、感染しないように予防することが大切です。感染を防ぐ最も有効な方法は、予防接種を受けることです。また、感染経路は飛沫感染、接触感染のため不用意に人混みに出かけることは避けましょう。帰宅したら手洗い・うがい等を行うように心がけましょう。

○麻しん・風しんに感染しないためには予防接種が有効です

- ・麻しん・風しんは定期の予防接種となっています。
- ・定期予防接種以外にも自己負担で予防接種を受けることは可能です。希望される場合は病院に相談しましょう。

インフルエンザの流行に備えましょう！！

- ・福島県内の1定点当たりのインフルエンザ患者報告は、第49週に注意報レベルとなる10.00を超えました。

〈インフルエンザの予防について〉

- ① **流行前のワクチン接種**
インフルエンザワクチンは、感染後に発症する可能性を低減させる効果と、発症した場合の重症化防止に有効と報告されています。
- ② **飛沫感染対策としての咳エチケット**
インフルエンザの主な感染経路は咳やくしゃみの際に口から発生される小さな水滴（飛沫）による飛沫感染です。咳やくしゃみなどが出る時はマスクをするなど、咳エチケットを心がけてください。
- ③ **外出後の手洗い等**
手洗いは接触や飛沫感染などを感染経路とする感染症対策の基本です。また、アルコール製剤による手指衛生も効果があります。
- ④ **適度な湿度の保持**
乾燥しやすい室内では、加湿器などを使って適切な湿度（50～60%）を保つことが有効です。

この情報に関するお問い合わせ先：県中保健福祉事務所 医療薬事課 感染症予防チーム

TEL：0248-75-7818 E-mail：kenchu_kansensyoyobou@pref.fukushima.lg.jp